まちづくり人材育成講座（第８回）課題

現在の浜松市において、ユニバーサルデザイン(ＵＤ)のまちづくりを進めていくのにあたり、留意する点や最も重点をおくべき事業・施策とその理由について、あなたの考えを述べてください。

平成２０年　１月２５日

ユニバーサルデザイン（ＵＤ）につき、富田課長補佐のお話を聞き「大変な時代の舵取りをされているなあ（意識・価値観が混濁している昨今での、意思統一とその具現化等・・・）」と思いました。

世の中は、安全・安心・信頼等について多種多様な事柄が、発覚・発生・喧伝され、情報屋は主目的を売りとし、各事案の帰趨迄突っ込んでいない様に思われ、これを受ける人々はキャッチフレーズ又はダーティーフレーズ等に知らず知らずの内に踊らされ、現象・感傷情報に流され無関心思考となっているのが実態の様に思われます。

この様な中で、ＵＤが特別なものでないことを市民に認知して頂き、生活習慣の中に同化させる事は、掻いた汗の割に評価が薄く、大変であり苦痛が伴うことと思います。

浜松市にＵＤ室設置からの経緯を熟知している一世代担当者が、各事案を進めている間は現行の進め方で可と考えますが、継続の力をどの様に仕組むかが課題と考えます。

ＵＤの認知度が８年間で約５０％となっていることは、同慶の至りであります。

但し　圧縮された言葉は、「言葉が一人歩きし、その心が伝承されなくなる。」ので注意が必要であると考えます。　又　ＵＤの成果を「鑑と共にその心」を、事ある毎に繰返しＰＲし、市民の認知度と支援・協力度を高めて行くしかないと考えます。

そこで、こんな見方もあるのだ・・・・を披露させて頂きます。

＊ 新設された南区役所の玄関（建物免震構造へは未言及）

「段差のないエントランスと誘導ブロック」と鑑に表現されていますが、この現実になるまでのデザイン担当者の思考と行動等に、非常に興味があります。

それは、「時代の流れに迎合し、障害者（少人数）への配慮と公器としてのＰＲ」が、裏の主要件だったと考えるからです。

私は、「誰もが気軽に出入り出来る玄関」との要件を満たすために・・・・

ア、近代建築での玄関敷居の概念払拭と、玄関機能を全うする。

イ、二重扉とし、屋外と屋内の体感調整空間を採る。

ウ、扉は、使い勝手・スペース活用等から引き戸とし、安全・安心を図る。

エ、扉は、透明な大板で明るさ・清潔・透明性・優しさ等を醸し出す。

オ、「区役所の顔」として、シンプルなデザインと適切な材料とする。

カ、玄関及びその周辺は、環境対策への配慮をし、且つ公示する。

＊保水性塗装　　＊樹木への植込み　　＊雨水活用（浜タル君…試行中）

＊直近駐車場は弱者対応　　＊自然と調和のとれた証明　等

と思考し、「人に優しい公器の玄関」に相応しい出来栄えと思っています。

これは、「デザイナーの持て成しの心」が具現化されたものと考えています。

ユニバーサルデザインのまちづくりについて

ユニバーサルデザイン計画　Ｕ・優プランには賛成である。
基本計画が期間を定めないとあるが当然のことであると思う。
人づくりは産まれた時からあるいは産まれる以前からの問題であると思う。一人の人間が成長し、社会をになうようになるには数十年の長い年月がかかる。成長するまでに受ける教育は様々な範囲に及び非常に多くの人とのかかわりが生ずる。
人づくりはまちづくりであり、まちづくりは環境づくりであると思う。人が人間らしく成長するためにはよりよい環境を提供しなければならない。人を取り囲む社会と暮らすための自然環境とによって、人は心豊かな人間として成長していくものと考える。

“ユニバーサルデザイン”という言葉は一般人にはわかりにくいように思う。言葉だけが先行してひとり歩きをしているような印象を受ける。机上でさまざまな施策や計画をたてるのは結構であるが、“こういうことをしました。”“こういうことをしています。”といった、役人の役人のための計画であってはならないと思う。現場（住民）の意見を幅広く求め、住民のために行動して欲しい。
とかく中心部に目が行くものであるが、周辺部にも目をむけ、広い浜松市が、より大きく発展するためには市民の協力をより多く得ることが大切であると考える。

浜松市におけるユニバーサルデザインのまちづくりについて

ユニバーサルデザインのまちづくりを進めるにあたり、最初に留意するべきことは、人への思いやりの心や、それを実行に移すことのできる勇気を育てることだと考えます。現在、学校ではユニバーサルデザインや福祉、ボランティア活動について教え、その意味ではこれからの世代には大いに期待したいと思っています。

しかしながら、現在、実際に社会の規範やまちづくりを進めている世代は、ユニバーサルデザインを頭で理解できても、それをまちづくりのなかに真剣かつ積極的に取り込もうとしている人が少ないのではないでしょうか、また、ユニバーサルデザインとは言え、全てを満足させられるものではないことを理解し、だれかがそれをカバーすることが必要であるのに、それには手を出さない人が少なからずいます。それについては、大人への教育と参加を促すべきです。

その他に留意する点として、ユニバーサルデザインを目指したにも関わらず、真にユニバーサルデザインになっていないこともあるかもしれません。

その意味では、特にまちづくりにおけるユニバーサルデザインの取り組みにあたっては、市が基本的な水準を示したものを整備し、必ず赤ちゃんから老人まで、健常者と障害者、男女の別、外国人など全ての人が参加して計画段階から供用後まで検証する必要があると考えます。

浜松市においてユニバーサルデザインを進めていくべき事業としては、第一に交通施策となるでしょう。

既存の公共交通機関である電車、バスについてはかなり整備が進み、駅員や乗務員の教育やサービスが向上してきたと思います。しかしながら、ユニバーサルデザインをさらに進めるためには、これまでの講座で紹介された市街地の活性化やコンパクトシティを実現させ、同時に交通施策では公共交通の充実や整備、交通弱者優先をもっと強くうち出すべきです。

鍛冶町の地下道の横断歩道化や東街区の広い歩道など少し弱者保護の施策も見えてきましたが、まだまだ進めていくべきです。例えばアクト通りが 152 号の下をくぐるのは逆ではないかと思えます。これまでのように車の利便性追求により市街地活性化を目指すのではなく、極端に言えば、公共交通を充実させ、市街地では限られた車のみ通行できるようなれば、もっとユニバーサルデザインが可能な街ができるのではないでしょうか。

また、歩行者と自転車、自動車はそれぞれが安心して通行できるよう分離すべきです。特に自転車に関しては、歩行者や自動車との接触を避けるため、自転車が通行できる歩道の無い道は市が全国の先駆けとなるくらいのつもりでは安全通行帯（ブルーライン）を車道内に設置するべきです。

交通施策とは違いますが、街中は歩行者が休憩できるポケットパークのようなものが少ないのが現状で、雨風を避けることのできるフォルテガーデンのような場所がいくつかほしいところです。

何れにしろ、ユニバーサルデザインを実現していくためにはいろいろな意見が必要で、例えば学者や関係者だけでなく、広く市民が参加できるようなしくみをつくる必要があると考えます。

まちづくり人材育成講座（第 8 回）　　課題　　2008.01.19.

『ユニバーサルデザイン？』

いままでは、経済活動優先で行われてきたことにより、画一的、没個性的で、生活しにくい、使いづらい“まち”や“もの”になってしまったと思います。

そのような中で、住む人、使う人の視点が大事であるということから、“バリアフリー”、“ユニバーサルデザイン”への取り組みが始まってきたのではないか。

最近は身の回りにおいて、“物質的なもの”、“目に見えるもの”などがかなりの速さで作られ、整備されつつあることから、これらの言葉は、だいぶ耳慣れつつあるなと感じています。

これからの課題は「すべての人に合わせることは難しいと思うのですが、多くの方が満足できるものを如何に作るか」であると思います。

まちづくりとしては、大きなバリアーを取り除くことが大事であると思います。

安全確保のための横断地下道や歩車道分離のための歩道の大きな段差の廃止、人を中心に考えた平坦なまちづくりを行う必要があると思います。

また、このような、ハード面のまちづくり、ものづくりはこれからも進められていくと思いますが、心の教育が大事であると思います。障害をもつ方、高齢な方などとどのように自分自身接していいのかわからないことが多々あります。意識し過ぎかもしれません。

講義のなかにもありましたが、「障害者は社会から隔離されている。一般人は障害者に触れる機会がない」また、「日本国内で障害者に対する扱いには地域格差がある。人権意識が低く差別意識の強い県もある」ということも聞いたことがあります。

心の教育はこれからの大きな課題だと思います。

浜松市は全国に先駆けて、ユニバーサルデザインに取り組んでいることに感心しました。今後はソフト面の取り組みに力をいれていただきたいと思います。

以　上